

県立大学で学んだこと

学生時代の学業が今に どうつながるか

【三原先生(司会)】

岡山県立大学は1993年の開学から30周年を迎え、これまで多くの卒業生の方々が、様々な分野、多方面でご活躍されています。今回は、各学部の卒業生と在学生の皆様による座談会ということで、県立大学について存分に語り合っていたきたいと思います。

【山口裕】

情報工学部人間情報工学科4年の山口裕平です。硬式野球部で昨年まで監督をしていました。先輩方は、学生時代の学びが、今にどうつながっているのでしょうか。

【徳永】

保健福祉学部看護学科3期生の徳永美加です。大学時代は手話サークルに入っていました。卒業後は大きな病院に就職して、今はクリニックに勤務し

ています。

看護学科なので、実習では患者さん一人一人に向き合う姿勢、心構えを教えていただきました。患者さんから教えていただくことも多くて、真摯に向き合う姿勢をすごく学んだと思います。今は外来業務なので、来院する患者さん一人一人に寄り添うよう心掛けています。

【茅野】

情報工学部情報システム工学科3期生の茅野功です。現在は川崎医療福祉大学の医療技術学部の臨床工学科で教鞭を執っています。主に医療機器の開発です。

4年生では佐藤洋一郎先生の研究室に所属していました。コンピュータでマルチウインドウという、複数で多くの業務をやることは、今では当たり前ですが、僕たちの学生時代はwindows95やNTを使っていて、一つのコンピュータ上で複数の作業をするのがすごく難しい時代でした。いかに画面表示をち

大学院
情報系工学研究科修了生

茅野
功

ISAO KAYANO

保健福祉学部
看護学科卒業生

徳永
美加

MIKA TOKUNAGA

情報工学部
人間情報工学科四年生

山口
裕平

YUHEI YAMAGUCHI

保健福祉学部
看護学科三年生

社
菜央子

MAOKO YASHIRO



らつかせずにきれいに見せるかという研究もしました。当時の回路設計とか電子工作が、今の医療機器の開発にもつながっています。

【大月】

デザイン学部工芸工業デザイン学科3期生で、プロダクトデザインを専攻していた大月敦史です。卒業後は名古屋のキッチンメーカーに勤め、3年前に転職して今は香川県高松市で建築機械のデザイン業務を担当しています。

デザイン学部でプロダクトデザインを学び、キッチンメーカーのプロダクトデザイナーとして入社したので、大学で学んだことがそのまま仕事として活かせる環境でした。デザインに対する心構えや「配慮」のようなことなど、デザインについての思想的なものを大学で培ったと思います。



後輩たちに学んでほしいこと

【山口春】

デザイン学部デザイン工学科4年の山口春香です。先輩として、後輩たちが在学中に学んでほしいことを教えてください。

【徳永】

私たちは実習のグループで行動するので、グループ内の絆が結構強く、その中で意見のぶつかり合いや、泣いたり笑ったり、それが大人になった今、自

分の財産だと思います。仕事で苦しいときは、学生時代の実習で乗り越えたときのことを思い出して、また頑張れることにつながっています。

【茅野】

大学院の博士後期課程までいたので9年所属したことになります。大学院まで行くと専門性がどんどん強くなり、どうしても視野が狭くなってしまいます。どんなに専門性を高めても、ヒントは自分の専門とは全然違うところにあたります。総合大学なので、いろいろな学科の人と交流して、いろんな意見を聞いて、アンテナを広く持つことが大事だと思います。

【大月】

私は1回転職したのですが、今の会社でも同じような仕事をしています。20年間キッチンメーカーで勤務した後、異業種の建設機械の業界に入って、今までいかに自分が勉強不足だったかということを実感しています。



大学院
デザイン学
研究科
修士
大月
敦史
ATSUSHI OTSUKI

デザイン学部
デザイン工学科
四年生
山口
春香
HARUKA YAMAGUCHI

県立大学で学んだこと

その専攻を選んだのは……

【徳永】

在学生の皆さんがご自身の専攻を選んだ理由を聞かせてください。

【山口春】

専攻は製品・情報デザイン領域です。デザイン工学科に入ることを決めたのは、文房具や雑貨が好きで、そういうものをデザインできるということに興味をもったからです。

【大月】

企業研修なども文房具メーカーが中心でしたか？

【山口春】

昨夏の時点ではまだ文房具メーカーと決められなくて、とりあえず大学に募集案内が来た会社に行ってみました。そのうちに自分のやりたいことが見えてくるというか、秋頃にインターンに行ったり説明会で話を聞いたりしました。

【山口裕】

自分が情報工学系を選んだのは、ソフトウェアやIT系の時代が来たと思ったからです。それに野球をやっている、

メカニズム的な動きを知りたいというのもあって、人間情報工学科を選びました。私の得意な数学だけで受験できるというのも理由でした。

【社】

保健福祉学部看護学科3年の社 茉央子です。助産師になりたいくて、看護学科を選びました。7つ下の弟が生まれたとき、こうした場に立ち会える幸せな仕事は他にないと思いました。

【山口裕】

数学が得意なものの、入学後はプログラミングが中心でした。これが苦手なので、1年生のときからずっと苦しんでいます。入学当時はコロナ禍で、オンライン授業が多く、オンラインならいろいろな意味でごまかせる。課題を提出して単位を取れるところがあって、ちょっとごまかしながらの1、2年生でしたが、いざ3年生で対面となったときに「やばい、全然できない」というのがあって、今苦しめられているという感じですね。

【茅野】

プログラムは何をやっているのですか。

【山口裕】

ロボットです。ロボットを動かすプログラミングを自分で作成して、例えば、この車を動かそう、みたいなことです。

【茅野】

社さんは看護学科で、国家試験がありましたよね。2年生ではどんな勉強をしていましたか。

【社】

1年生から2年生にかけては基礎ですね。基礎となる病気の疾患名、好発部位、たばこを吸っていないか、お酒を飲む人はこうになりやすいなど、検査、治療とかを必死にやります。

【茅野】

山口さんのデザイン工学科は、私には未知の領域です。勤務先の川崎医療福祉大学にも医療デザイン学科があるのですが、きれいなデザインのポスターや造形物を作ったりしていますが、どういうことを勉強されるのですか？

【山口春】

1年生で基礎を学んで、2年生で実践するため、テーマを与えられて4クォーターで課題を1つこなしていく感じなんです。3年生ではさらに実践的になって、そこではターゲットをより深く設定して、テーマコンセプトを詰めていくみたいな段階を学んでいます。

【茅野】

情報の世界ではコンピュータがものすごく活躍しているじゃないですか。デザインの世界にもコンピュータを使って何かすることが多いのかなと思ったのですが、実際にモノを作る方が多いのですか。



【山口春】

おっしゃるとおり、デザイン学部はモノを作ることが多いと思います。

【茅野】

研究発表をする際にスライドを作るのですが、デザイン学部の先生に見てもらくと、同じ内容なのにビジュアル的で、目で見て分かるスライドになっている。デザインを学んでいる人って、無条件で尊敬してしまいます。

【大月】

20 数年プロダクトをやっていて、情報の部分の変化をすごく感じています。私が学生のときはプロダクトコースというと、コンシューマープロダクトの製品をテーマに与えられて、それを実際に作ってプレゼンを繰り返していたのですが、今の学生さんは、ユーザーインターフェースみたいな、画面デザインなどプログラミングのようなことをやっているのですか？

【山口春】

プログラミングには至っていないと思います。

抱いている キャリアイメージは？

【大月】

キャリアイメージについて伺います。皆さんは、10 年後にどのように暮らしているか、イメージしていますか？

【山口春】

10 年後……結婚はしたいなって思っていて、あとは、実際の会社での立ち居



振る舞いというか、自分の立ち位置も、決定権がある段階までは上り詰めておきたいと思いますね。

【山口裕】

結婚の話がありました。今のところ、必ず結婚したいとは考えていません。仕事に関しては、10 年後に 31、32 歳なので、ある程度自分でひとりおりの仕事ができる、その就いた仕事で何かできていたらいいなと思います。

【大月】

就職活動もあると思いますが、どんな分野の仕事がしたいですか。

【山口裕】

エンタメというか、テレビドラマや芸能人が好きで、テレビの制作会社や芸能プロダクションのマネージャーみたいな仕事を考えています。

【社】

結婚はしたいです。子供も欲しいです。女性として生きているという自負があるので、できることは全てやってみようという願望があります。職業でいうと、災害時にも活動できる助産師になりたいので、もし、そういうピンチを迎えた人がいたら現場に赴いて、母子に寄り添いたいと思います。

【大月】

被災地にボランティアに行く活動もするのですか。

【社】

実際、災害に遭ったことはありませんが、複数の講義で災害のことをやっていて、予防の方で、もし何かあった時にどうしたらいいか、若者に危機感を持ってもらうにはどうすればいいか、みたいなことを副専攻でやっています。

【大月】

世の中に無数の製品が存在する中で、デザインが関係しないものはほとんどない状況です。デザインって飽和状態にあるというのが現状で、「さらに新しい製品作るの?」みたいな疑問って持つてしかるべきだし、デザイナーはそういう疑問も持っていないといけないと思います。

転職を決意した理由もそういうところにあって、世の中にはいろいろなデザインがあるのですが、皆、競って最先端に行きがちです。ファッションなどもそうで、前職では感覚的にそちらに近い業界でした。それはそういうビジネスモデルなのですが、消費サイクルが速く、すぐに新しいもの、次を出そうとする傾向があります。それが悪い訳ではないのですが、私は「じゃあ前

県立大学で学んだこと

作ったものはどうなるの？」みたいな疑問を溜め込んでいきました。なので、違う視点でモノ作りに関わりたくて建設機械の業界に転職をしました。

【茅野】

私は臨床工学科で臨床工学技士を養成する教員なので、病院の中で臨床工学技士がどれだけ活躍して、どれだけ重要なのかということを知ってもらったことが、私の最大の課題です。

学科長となった今、高校生や中学生に臨床工学技士が、世の中の病院などで活躍していることを知ってほしいです。臨床工学技士になりたいという若者を増やすことが使命かなって思っています。30年後、「ああ〜！臨床工学技士頑張っているよね」「病院といえば看護師だけど、臨床工学技士かっこいいよね」って言ってもらえるような未来、そこを目指しています。

【徳永】

就職して第一線で働こうとしても、出産や結婚など家庭の事情で、なかなか難しいこともあります。看護には携わっていたいという気持ちがずっとあります。勤めているクリニックは家の近くですが、自分の子供が学校などから帰ってきたときに「おかえり」と言っ

てあげたいから、自分のライフサイクルに合わせて仕事を選んだことも理由のひとつです。

身につけておきたい能力とは

【山口裕】

今後どのような能力が求められるかを、社会人として働いている立場で教えていただきたいと思います。

【茅野】

大事なのはカリスマ性だと思いますね。その専門以外の分野の人が「そのことだったら、あの人に聞けばいいじゃない？」というカリスマ性があると、結果として花開いていきますよね。

【大月】

どんな仕事でも人の話を素直に聞けることはものすごく重要な力です。人と人とのコミュニケーションの中で、相手の言っていることをきちんと受け止められることは、能力以上に自分がそうしようと思わないと身につかない。そういう姿勢を持っていないと人から信用してもらえない。社会人で一番重要なことは、信用だと思っています。

【徳永】

素直ってという言葉が出たのですが、看護は人を対象にした仕事なので、その素直な心を持つことはすごく大切だと思います。「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に言える心を持って、その意見を素直に受け止められる器を広げていくことが大切だと思います。

大学に求めるもの、求められるものは

【山口春】

次の質問です。先輩方は今後、大学でどのような教育が必要だとお考えですか。

【大月】

デザインに関しては、先生がいて、後は自分たちと同じレベルの学生がその環境の中で学んでいるだけではちょっと狭いかなと思います。例えば、バイト先で何かチラシを作りたいけど、やってくれないか、みたいな話があれば、どんどんやって、そこで「何部刷るのか」「どのぐらいコストをかけられるのか」みたいなリアルな話をしたらいいのではないかと思います。





【茅野】

学生生活は4年間あるから、いろいろなことを勉強してほしい。大学はいろいろな教育ができるようにしているという受け皿を作ってあげることって大事じゃないかと思います。例えば上級生になっても、デザイン学部の学生が栄養学科のゼミを聞く機会があるとか、器を広く持つために自分のアンテナを広げるための講義を大学側がたくさん用意するのがいいと思います。

【徳永】

大学生生活は勉強だけではなく、人生のいろいろなことを学べる時期だと思うので、その中で自分が興味を持てることや、好きなものを見つけられるきっかけ作りしてもらえたらいいと思います。

学生るとき、特定非営利活動法人AMDAから活動を見てみないかって案内があり、参加したことがありました。ネパールに行ったのですが、そこでは医療の違いや文化の違い、考え方の違いが数多くあったことを感じ、自分の生きている世界が何て狭かったのだということを思い知らされました。視野が広がったというか、本当に良い経験をさせてもらったので、学生さんにはいろいろな経験をしてもらいたいです。

【三原先生(司会)】

皆さんから様々なお話を聞かせていただきましたが、県立大学への思いなどがとても良く伝わりました。卒業生の皆さんは、引き続き、それぞれの職場

や地域でご活躍いただくとともに、在学生の皆さんは、近い将来、県立大学で得られた知識や経験を生かして、社会へ羽ばたいていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。



開学30周年記念事業実行委員会
三原 鉄平

